

## 平成 28 年度 食育推進に係る実践報告書

学校名	北広島町立大朝小学校		
学校長氏名	山根 昌美	栄養教諭氏名	大内 朱莉
職員数	14名	児童・生徒数	71名

## 1 学校における食育の現状（昨年度からの課題等）

今年度より栄養教諭配置となり、校務分掌にも位置づけられている。昨年度までは隣接している調理場の学校栄養職員が学校訪問できる環境であったが、単発的な食に関する指導となりがちで、発達段階に応じた様々な経験を通じた継続的な指導の実施が難しい現状であった。

給食時間における食に関する指導では、配膳をする際につき切る指導が徹底されており残菜はほとんどないが、児童が自分で量の増減をするなど偏った調整をする姿が見られた。また、基本的な食事のマナーや正しい食器の持ち方・箸の持ち方が身につけていない児童も多い。

## 2 学校の食育に係る目標（成果指標・目標値）

生涯にわたって、健康でいきいきとした生活を送ることをめざし、児童一人一人が望ましい食生活の基礎・基本を身につけ、食べることを通じて、自らの健康管理ができるようにする。また、楽しい食事や給食活動を通じて豊かな心を育成し、社会性を養う。

短期目標：健康・食に関する指導を充実し、食への関心を高め、望ましい食生活を身につける。

評価指標：授業後のワークシートでの評価（ねらいに則した記述をした児童の割合）、保護者・児童の食育アンケートにおいて肯定的評価をした割合

目標値：85%

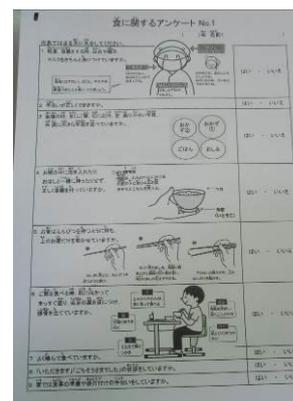
## 3 食育の目標に対する具体的な取組

## 【取組1】（テーマ）給食の時間における食に関する指導

給食指導年間計画を作成し、基本的な食事のマナーが身につくよう毎月の給食目標を設定、継続的・計画的に指導を行った。毎日、各学級の様子を見て回り、給食目標にそった声かけを行った。また、木曜日は学級を訪問し指導を行うとともに、一緒に給食を食べて児童の現状や課題を把握した。年度末には、給食指導の内容がどの程度児童に身につけているか把握するため「食に関するアンケート」を実施した。

毎月19日には、広島県の特産品を使ったメニューや広島県の郷土料理を給食に取り入れるとともに、掲示板に「ひろしままるごとMAP」を作成し、料理の写真や一言メモの掲示を行った。

全国学校給食週間には、給食川柳を募集し、表彰を行った。



## 【取組2】(テーマ) 保護者への情報発信

全学年において給食試食会を開催し、子どもの給食の量や食べる様子を知っていただくとともに、食に関する講話を実施した。また、給食の時間や各教科等における食に関する指導内容を学級通信に記載し、家庭への情報発信を行った。



試食会後には保護者の食への関心や、家庭での児童の様子を把握するためにアンケートを実施した。

## 【取組3】(テーマ) 夏休み中の食事づくりのお手伝い

夏季休業中に食事づくりに関わって、学びを実践につなぎ、意欲付けとする目的で食事づくりの取組を行った。保護者の方からもコメントをいただき、家庭でのコミュニケーションの場や話題にもなっている。また、「良い機会になった」、「昨年より出来る事が増えていた」などと好評価をいただいている。取組後は、表彰するとともに通信での紹介も行った。

## 4 「ひろしま給食100万食プロジェクト」の取組について

○夏季休業中の町内学校給食調理員研修会で、ひろしま給食メニューの調理実習・試食・意見交流を行った。

○10月、11月の給食でひろしま給食4品を実施、さらに学級を訪問し宣伝を行った。

○通信等で家庭に参加を呼びかけ、シールを活用して学級ごとに集計することで、関心を高めながら広島県の食材についての知識を高めた。

○ひろしま給食実施日に給食試食会を開催し、保護者の方に食べていただくとともにひろしま給食について情報発信を行った。



## 5 取組に対する成果と課題

### 【成果】

○「食に関するアンケート」の9項目中5項目において、肯定的評価をした児童の割合が目標の85%を達成した。特に、食事の挨拶や給食当番の身支度の項目において、肯定的評価をした児童の割合は90%を超え、定着がみられた。

### 【課題】

- ①「食に関するアンケート」において、食事時の姿勢について肯定的評価をした児童の割合が36%と他の項目と比較して著しく低かった。
- ②「保護者アンケート」において、各教科等で習ったこと(食に関する内容)について話をするところがあるという回答は39%と低く、情報発信が不十分であった。

## 6 今後の取組に向けた改善方策について

- ①姿勢については食事の中のことだけとしてとらえるのではなく、日常生活の中でも意識付けられるよう担任と連携しながら取り組んでいく。
- ②教科等の指導では、ワークシートや通信を活用し、担任と連携し保護者へ指導内容を随時伝えることで食への関心を高める。